

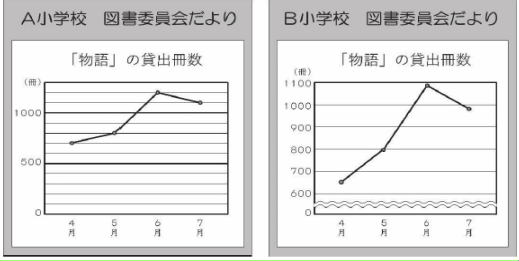
単元到達度評価問題の活用 昨年度の課題から指導のポイントを探る（5月）！

西部教育局
お役立ち情報
令和2年5月号

昨年度の単元到達度評価問題の結果報告で課題としてあげられた問題をもとに、指導のポイントの一例をシリーズで御紹介していきます。PDCAサイクルのP（プラン）からの活用を充実させるために、実施月に合わせて配信していきますので、問題と解答を確認する際に参考にしてください。

※3年生は6月より配信、6年生は学習指導要領改訂に伴って出題内容を新たに設定しているため、本号には掲載していません。

第4学年「折れ線グラフ」



（単元到達度評価問題 4年 5月 より）

折れ線グラフは、線の傾きぐあいでもわり方がわかるよ。

つまり、B小学校の5月から6月の傾きが一番急だから、貸出冊数のふえ方が一番大きいということだね。



注目！ 見直す活動へつなげる教師の問い

読み取ったことが正しいかどうか、話し合ってみましょう。

あれ？
B小学校のグラフには、省略の記号が使っているよ。

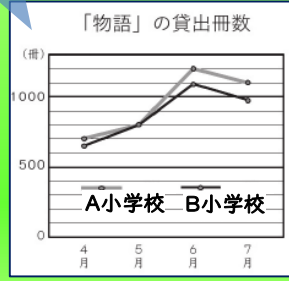
縦軸の目盛りの幅が違うよ。そのまま比べてもいいのかな？



縦軸の目盛りが同じグラフに作り替えてみたらどうかな？

新学習指導要領の「Dデータの活用」の内容です。教科書でも、グラフをかいたり読み取ったりするだけでなく、判断したことを考察する場面が多く扱われています。

「導いた結論は、正しいのかな？」という視点で**見直す活動**を取り入れる！



あっ！A小学校の方が、ふえ方が大きい！！

グラフによって縦軸の目盛りが違うから傾きぐあいだけで比べることができないね。見かけに惑わされないようにグラフを読み取ることが大切だね。

第5学年「小数のかけ算」

4 次のアからエまでのカードのどの□にも0でない同じ数が入ります。積がかけられる数より小さくなるのはどれですか。下のアからエまでの中からすべて選んで、その記号を書きましょう。また、そのわけも説明しましょう。（記号1点、説明1点）

ア × 0.8 イ × 3.1 ウ × 0.06 エ × 1.07

（単元到達度評価問題 5年 5月 より）

教科書では、「1mの重さが3kgの鉄のぼうを、次のような長さ（0.5m、0.8m、1m、1.5m、2m）に切りました。それぞれの重さを求めましょう。」という問題場面が扱われています。

式は、 3×0.5 、 3×0.8 のようになるね。かけ算になるということは、答えは3kgより重くなるよ。



本当かな？でも、0.8mは1mより短いから、重さも軽くなるはずだよ。



かけ算の答えは、いつも、かけられる数より大きくなるとはかぎらないのかな？

注目！ 図を使って説明する活動へ展開する教師の働きかけ

図に表して調べてみましょう。



かけられる数より、積が小さくなることもあるんだ！

☆かけられる数と積の大きさの関係は**数直線や図で理解！**
☆**算数用語**を使って説明
（「かけられる数」「かける数」「積」）



図に表すと関係がよくわかるね。
かける数が1より大きいときに、積はかけられる数より大きくなるね。

かける数が1より小さいときに、積はかけられる数より小さくなっているね。

数学的活動を取り入れ、実感を伴った理解につなげることが大切です！